

第1学年1組 算数科学習構想案

期 日 令和元年7月17日(水) 第5校時

場 所 大津町立室小学校 1年1組教室

指導者 教諭 増永 登志子

1 単元計画

(1) 単元名及び題材名 「20までのかず」(啓林館1年生 P. 18～29)

(2) 単元の目標

20までの数について、構成とよみ方、かき方を理解する。また、数の系列・大小関係を理解し、数直線上に表す。

(3) 単元のゴールの児童の姿

「10といくつ」で数えるよさに気づき、ものの個数を進んで正しく数えられる児童

(4) 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物などのものの個数を正しく使えたり、数えたりしようとしている。 ・ 「10といくつ」によって20までの数を表すよさを知り、進んで生かそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20以下の2位数に対して、「10といくつ」という考え方ができる。 ・ 「10といくつ」という数の見方を基に、加減計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20までの数について、よんだり、かいたりすることができる。 ・ 数の大小や順序を正しく判別することができる。 ・ 数構成に基づく加減計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20までの数について、構成、系列や大小関係を理解している。

(5) 単元の指導計画(7時間取扱 本時1/7)

次	時	学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準
1	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の絵を見て、海の生き物のそれぞれの数量に目をむけ、もれなく数を数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数え間違いのないように、数図ブロックに置き換えて数えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 考 たこの数と置き換えた数図ブロックの、わかりやすい並べ方を考えることができる。 技 第1時のたこの数をかぞえたときと同様に、数図ブロックに置き換えて数えることができる。 技 20までの数字を書いたり、よんだりすることができる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10と3で「じゅうさん」と表すことを知る。 ・ 海の生き物の数を数えて「じゅうしち」や「にじゅう」をよんだり書いたりする。 ・ 10から20までの数の構成を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20までの数について、読んだり書いたりするときは、数図カードと対応させながら丁寧に行う。 	
2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数字を見てその数だけ数図ブロックを並べる。 ・ 2つの数字の大小比較をする。 ・ 2とびや5とびなど工夫して数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師や児童どうしで問題を出し合い、繰り返し行うことで習熟を図るようにする。 ・ 速く数える数の見方を確かめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技 20までの数字に対応した数だけ数図ブロックを並べることができる。 知関 20までの数の系列を理解し、数直線上の数をよんだり表したりしようとする。 関 身の回りから、進んで20までの数のものを見つけようとする。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ じゃんけんすごろくを通して、20までの数の系列について理解する。 ・ 数の線の空欄に適切な数字を入れる。 ・ 身の回りから、20までの数のものを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数の線について気づきを出させ、数の大小や順序関係の理解を深める。 ・ 身の回りの20までの数のものを探させる。 	

3	5 6	・10+4や12+4の計算の仕方を考える。 ・12-2や15-3の計算の仕方を考える。	・「10といくつ」の考えで計算できることを確認させる。	【技】20までの数の構成に基づいたし算・ひき算ができる。
4	7	たしかめ		

2 単元について

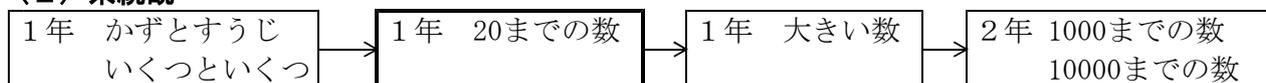
(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の第1学年2内容B「数と計算」(1)に示された指導事項のうち、20までの数について、構成とよみ方、かき方に関する指導のために設定されたものである。

児童は、これまでに10までの数の概念、よみ方、かき方、順序、系列、大小関係、合成・分解、加法・減法などについて学習してきている。本単元では「10といくつ」という数の構成の考え方によって、20までの数の概念を養うことをねらいとしている。

実際に具体物の個数を数える活動や数直線上の操作によって、数の大小、順序を捉え、数概念の理解を深めていく。また、ここでの加減計算では、「10といくつ」といった数の構成を式に表すことにより、20までの数の概念をより理解することをねらいとしている。

(2) 系統観



(3) 児童観

本学級は36名である。実態調査の結果は以下の通りである。

- ものの数を数える① (7)・・・正答36名 ② (10)・・・正答35名 ③ (11)・・・正答35名
④ (12)・・・正答26名 ⑤ (16)・・・正答24名

- 算数の学習は好きか・・・好き19名、まあまあ好き5名、あまり好きではない3名、嫌い9名

10より大きい数は、教科書のページや出席番号など普段から目にしていることが多いが、正しく数えたり書いたりすることができた児童は約3分の2であった。算数を「あまり好きではない」「嫌い」と答えた児童は、理解を苦手とする児童や集中力が持続しない児童に多い。授業中では、活発に発言する児童がいる一方、発言を苦手とする児童もいる。このような実態を踏まえ、視覚的な支援や発問の工夫など、児童の理解や集中を助ける手立てをしていく。また、ペア学習の形態を取り入れたり、教師が児童の発言を広げたり繋げたりする役目をしたりすることで、児童が主体的に学び合う授業展開をしていきたい。

(4) 指導観

【研究主題】「学びに向かう力」の育成～「主体的な学び」へ導く学習指導の工夫～

【わくわくしている姿へ導く視点】

- 本単元では、20までの数を「10といくつ」という考え方によって20までの数の概念を養うことをねらいとしている。そこで、これまで養った10までの数の概念、読み方、書き方、計算など等とつなげさせながら学習を進めていく。

【試行錯誤しようとする姿へ導く視点】

- 10より多いもの（ブロック）を並べるときに、「わかりやすい並べ方」という視点を与え考えさせる。全体で出し合う際には「どのように並べたか。」を伝えさせたり、教師から「ぱっと見て13と分かるのはどれですか。」と問いかけて気付きを出し合ったり、学級全体で解決を図る。

【理解が深まった姿へ導く視点】

- 低学年の「理解が深まった姿」は「何が分かったかを自分の言葉で伝える姿」である。1時間ごとの最後には、必ずめあてに立ち返り、児童の言葉を生かしながらまとめを行っていく。まだ分かったことを表現する力は十分育っていないので、挙手をするなどして自分の考えを持たせていく。

【学びを広げようとする姿へ導く視点】

- 20までの数のものを、教科書の写真や図を手がかりに、自分の持ち物や教室の中、家の中

から見つけさせる。身の回りにも、学んだことが生かされていることを実感させたい。

3 本時の学習

本時においては、「試行錯誤しようとする姿」へ導くことを目指す。

(1) 目標

- ・たこの数を置き換えた数図ブロックを、わかりやすく並べる方法を考えることができる。
- ・20までの数を「10といくつ」という見方で考え、唱えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 T発問・指示 C児童の反応	○指導上の留意点 ◇具体の評価規準
導入	8	1 本時の問題場面をつかむ。 C 10より多そう。 T どうやって数えたらいいかな。 C 鉛筆で印をつける。 C ブロックをおく。	○ 海の中のイラストを提示し、「どんな生き物がいるか」「どれが一番多いと思うか」等を問い、児童の思考を「数える」という方向へ導く。 ○ 「どうやって数えたらいいか」を問い、「ブロックで数える」という既習の技能を引き出す。
	5	2 たこをブロックに置き換えて、数を数える。	○ ブロック1つが何を表すかを問い、「ブロックをたことみる」ことを確認させる。 ○ 次の2点は全体で確かめながら、丁寧に進める。 ①イラストのたこの上に正確にブロックを置いているか。 ②そのままの状態では、「数えにくい」ということ。
展開	25	3 「わかりやすいぶろっくのならばかた」を考える。 C 1 (横1列に並べる)  C 2 (10と3に並べる)  C 3 (10のかたまりと3に分ける)  C 4 (5と5でできた10と3に分ける) 	○ 児童の並べ方を予想し、全体の思考の流れに応じて、教師が並べ方を提示し、比較させるようにする。例えば、C 2の思考だけの場合は、C 1の思考は教師が提示する。 ○ ペアと全体での話し合いを柔軟に切り替えていくようにする。 ○ 本時においては、C 2またはC 4の並べ方は確実に取り扱うようにする。 ○ 「10が見やすい」というような発言を引き出し、取り上げるようにする。 ○ 「いくつといくつに分ける」という見方・考え方を確認し、「いくつといくつが数えやすいか」を考えさせるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">◇ わかりやすいブロックの並べ方を考えている。 【数学的な考え方】</div>
	7	4 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">まとめ 10より大きい数は「10といくつ」がかぞえやすいです。10と3で「じゅうさん」といいます。</div>	
まとめ・振り返り		5 魚の数をブロックで並べ替える。 C C 2がいいです。 C C 4がいいです。 C 10と5で「じゅうご」です。	○ 「(C 1～C 4の) どの並べ方がいいですか？」を問い、本時の理解を確かめる。その後、「数えやすい並べ方」を板書を基に確かめ、「10」のきれいなまとまりを作ることを意識させながら、ブロックを操作させる。

